

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行
No.

24

発行日：2013年4月19日(金)

地域企業紹介 その 24
株式会社和広

人が集まれば 何でも出来る

鉄道車両用機器の製造・メンテナンスを手掛ける株式会社和広の代表取締役である鍵谷敏博社長を町田市小山ヶ丘まちだテクノパークの本社工場に訪ねました。鍵谷さんは「多摩高度化事業組合(まちだテクノパーク)」の理事長も務めている。

和広は電車や機関車などに搭載される制御装置、電源装置を始め電磁接触器などの単品器具類の製造並びにメンテナンスを手掛けている企業。主な取引先は交通事業の大手メーカー。

4人兄弟の末っ子として育ち子供の頃から自由奔放だった鍵谷社長は中学生の頃から将来は自ら起業したいと考えていたそうで、海洋土木を学んだ海洋学部時代にも小さいながら2つのビジネスを立ち上げている。

鍵谷さんの生家は鳥取で大きな味噌問屋を営み相撲部屋まで抱える裕福な家だった。その後北海道に渡り機械関係の事業を始めたが父親は東京に憧れ蒲田での工場勤務についた。短期間に数々の技術を習得した後、町田市鶴川に機械加工の会社「鍵谷製作所」を昭和21年に創業する。小さなボール盤一台からの創業だったが創業間もなく大手企業から直接機械加工の仕事を受注するという幸運に恵まれている。鍵谷さんは大学卒業後、突然の次兄の死などもあり父親が経営する同社に入社、その間に自身のスキル向上を目指し大手企業への出向経験を積上げ、その後常務、専務、社長を務め、平成12年には同社を長兄に引き継いでいる。

(2面につづく)

株式会社和広

代表取締役 鍵谷敏博

所在地：町田市小山ヶ丘2-2-5-9
まちだテクノパーク

従業員数：42名 資本金：1,000万円

売上高：8億3,000万円

事業内容：鉄道車両用機器、産業用電源ユニット、
大電流コネクタなどの開発設計、製造、
組立、試験、メンテナンスサービス

和広の設立は平成元年なので12年間は鍵谷製作所と和広の役員と二足のわらじを履いていたことになる。

大手企業に出向していた時期に作業者の熟練した技術力を目の当たりにし、鉄道車両製品の固有の技術を誰かが次の世代に伝承していかなければならないとの強い思いで和広設立を決意したという。同社の従業員の三分の二は大手鉄道関連メーカーを定年退職した熟練技術者が占める。この熟練技術者の技術が若手社員に伝承される仕組みが出来上がり同社をガッチリ支えている。

鍵谷さんの楽しみは、みんなで話しながら新しいものを創り出すこと。人が集まれば何でも出来る、時には楽しく・時には厳しく・皆で和気あいあいと仕事をし、皆の笑顔を見る楽しさが最大

の喜びだと言う。

今、その鍵谷さんが楽しみながら精力的に取り組んでいるのが合同会社マチダ・ラボの活動。和広、町田商工会議所工業部会のサンレックス、光学系ガラスの接着・研磨を手掛けるジャパンセルなどまだテクノパークの研究開発型企業を中心に平成23年に合同会社を設立し、様々なものづくりに挑戦している。取組む分野は危機管理、アグリビジネス、環境、ロボットと多様だ。製品開発の世界的な潮流である「オープンイノベーション」を先取りしたこの取組みに期待したい。

人を愛し「利他の精神」を持つ鍵谷さんなら必ずやり遂げてくれるだろう。



「デザインでVISIONを可視化する」

デザイナーに出来ること、それは、お客様と共に商品やサービスに対するお客様の思いを形に(可視化)すること。個性を引き出すまでのプロセスをとっても大切にしているのは、こぞ企画代表の小崎直利さん。

高校3年の夏、初めてデザインと言う仕事がある事を知った。「自分の作品が社会に出る仕事をしたい!」と思い、美術の道に進んだ。デッサン力をつけて入学した多摩美術大学美術学部情報デザイン学科は、かたちのない「情報」から人や社会の豊かな関係や文化を作り出すといった「考える力」を身に付

けるところだった。

卒業後は、就職ではなく起業の道を選び、大学で学べなかった事を色々な観点からアプローチし、習得してきた。相模原に来て10年。デザイナーに成りたての頃、都心部へ向いていた気持ちは、第二の故郷相模原で地に足をつけて踏ん張る事を選んで。「企業と共に、人と共に作り上げる仕事をして行きたい。何のデザインをするかではなく、企業が何を必要としているのかという事から一緒に考え、デザインを導き出して行きたい。」と小崎さんは話す。

こぞ企画の事業内容のご紹介

<地域・企業・商品のブランド構築>

- ・ロゴデザインおよびブランディングに関わるアートディレクション
- ・地域振興に必要なデザインアプローチの提案
- ・デザインコミュニケーション戦略の企画立案

<クリエイティブな表現による価値の創造>

- ・各種広告物の企画制作
- ・ホームページ、パンフレット、カタログなどの広報物の制作
- ・ノベルティグッズなどの販売促進物の制作など



こぞ企画
SIC-1 325
TEL・FAX : 042-770-9554
Mail: kozaki@kozakikaku.com
※思い立ったら躊躇なくご連絡下さい。

さがみはら産業創造センター（SIC）の歴史



株式会社さがみはら産業創造センター 専務取締役 山本 満

SICも皆様に支えられ14歳となりました。そこで、今号から6回にわたりSICの誕生に関わった人達に創立当時を振り返っていただきます。

第1回は「産学共同研究開発支援施設に関する検討会」の思い出です。相模原市は地域産業の活性化のため大学・研究機関と企業を結ぶ拠点整備を計画していました。行政が考えたこの計画を産業界の視点で再検討したのがこの検討会です。この検討会での議論がSIC誕生につながっていくことになります。

検討会のメンバーは11名。市内の若手経営者と相模原市や商工会議所の若手スタッフで構成されました。その当時の名簿を見ると30代が7名、40代が4名です。SICの取締役に長年務めていただいた権田さん、小俣さん、そして、現在もSICの取締役として活躍していただいている松岡さんもメンバーの一員でした。私も相模原市の若手職員として参加しました。また、事務局として検討会を支えてくれたのがSICの企画事業部副部長の稲垣さんとSICのスタッフを経て自ら起業した小俣さんです。こうしてみると検討会はSICの母体となった組織といえます。

1998年4月28日に第1回の会合が相模原市立産業会館の4階にある国際商談室の一角で開かれました。メンバーも働き盛りで忙しかったため11時30分集合、弁当を食べながら議論を始め13時30分解散といったタイトな会合でした。思い出深いのが施設建設を巡る議論でした。施設建設に非常に懐疑的で「施設整備ではなくソフト支援を重視すべきだ」、「既存施設の改修で対応すべきだ」と主張するメンバーもいましたから議論は白

熱しました。私は進行役でしたが、施設整備は断念せざるを得ないと考えたほどです。

また、運営についても公的機関ではなく株式会社でやるべきだとの意見が強く出されました。

学識経験者を招いた意見交換や東海大学、慶応大学の訪問も含め合計11回開催され、同年の12月に相模原市長に提言書を提出しました。

提言のポイントは2つです。

1. 民間主導の運営

産業振興にはスピードや柔軟性が非常に重要であり自治体や財団ではなく新たに会社を作って経営すべきである。

2. 低廉な施設づくり

賃料を低く抑えるためにも無駄を省いたローコストな施設とすべきである。

SICは全国的にも成功したビジネスインキュベータという評価を受けていますがこの検討会の提言が成功に導いた大きな要因となっていると思います。

こうした幸せなスタートを切ったSIC。ここで示された提言を忘れることなく、地域社会や企業が求めるニーズを常に追いかけ、変革し続ける産業支援機関であらねばと肝に銘じています。

【提言骨子】

○施設整備のねらい

相模原市や周辺地域の持つ産業や研究機関の集積を活かし、新しい産業の創造、最先端技術の研究開発、基盤的な技術・技能の継承などを地域全体で推進する拠点づくりを進める。

また、そうした技術や情報を世界に向けて発信する。

○機能

- ・新規創業の立ち上げ期支援、産学連携の仲介、技術相談を行う。
- ・新規創業や共同研究を支援するため低廉なスペースを提供する。
- ・地域企業の経営層の意識啓発や技術者の育成を行う。

○運営

- ・民間の活力、人材、企業経営のノウハウが反映できる組織が運営すること。
- ・地域企業が参画できる組織とすること。特に次世代を担う産業人の参加が望まれる。
- ・したがって、地域企業と行政による共同会社を設立し、事業実施を行うことが必要である。特に採算性を重視すること。

○施設

- ・当初は必要最小限の建物とし、必要に応じ順次整備すること。
- ・機能を重視し、無駄を省いた低廉な施設とすること。
- ・貸しスペースの設備については電気、ガス、通信など基本的な機能のみとし、それ以外の設備については後日入居者が設置すること。

【検討会のメンバー（当時の所属）】

権田 源太郎：権田金属工業（株）
小俣 邦正：（株）昭和真空
松岡 康彦：湘南デザイン（株）
河本 悟：東邦電子（株）
小林 孝至：クニミ工業（株）
尾崎 一郎：尾崎ギア工業（株）
布施 昭愛：相模原商工会議所
林 晃：相模原市産業振興財団
山本 満／小俣 晃之／稲垣 英孝：相模原市

⑤ とってもとっても ちいさな旅

相原・諏訪神社の獅子山

どこの土地にも神社があり、神社の参道には、必ず一對の狛犬がいます。邪気を祓うと言われる狛犬ですが、ここにはどんな狛犬がいるのだろうかと思ひながら、町田市相原の諏訪神社に行ってきました。そこには、獅子が千尋の谷に我が子を落とし、這い上がってきたものだけを育てるといふ故事が描かれていました。慶應四戊辰年七月吉日と記されていましたので、すでに江戸城が開場し、会津藩が最後の抵抗をしている頃に奉納されたようです。





SIC アントレ・インターンシップ 「ひと足先に社会人」

今年で10年目！あなたで100人目！！

「SIC アントレ・インターンシップ」は、毎年8月に開催される「子どもアントレ」の企画運営を大学生が中心となって行うものです。

このインターンシップは、一般的なインターンシップのように1～2週間ほど企業に行き、仕事の現場を垣間見るものではありません。両アントレの核心となる講義を中心に企画運営していただきます。十分な準備が必要なため、期間は半年余りの長期になります。生半可な気持ちではとても続けていくことは出来ません。しかし、やり遂げた人には、得るものがたくさんあります。

本アントレ・インターンシップと子どもアントレは、地域の企業の皆様に支えられて行っている事業です。

今年もインターンシップの募集を開始いたしました。開催概要・募集要項等詳しくはSICホームページをご覧ください。

<http://www.sic-sagamiHara.jp>

2013.5-

SIC EVENT CALENDER

イベントカレンダー

5月12日(日)	SICアントレ・インターン	事前説明会
5月26日(日)	SICアントレ・インターン	キックオフ
6月1日(土)～11日(火)	2013子どもアントレ	募集
6月15日(土)	SIC経営塾	開塾

入居企業を募集してます。

SIC 空室情報 (2月20日現在) SICまでお気軽にお問合せください。(賃料：共益費込み)

部屋	空室数	賃料(月額)
SIC-1 セミラボB (31.5㎡)	1	93,975円
スモールオフィスA (23.6㎡)	2	78,750円
スモールオフィスB (17.3㎡)	2	61,320円
SIC-2 現在、空室はありません		
SIC-3 現在、空室はありません		
SIC-1 ★セミラボA (47.3㎡)	1部屋	平成25年5月中旬より入居可
SIC-1 ★スモールオフィスA (23.6㎡)	2部屋	平成25年7月中旬より入居可

「ニュービジネスリーダー」育成セミナー

SIC 経営塾

2013
塾生募集

SIC経営塾

「ニュービジネスリーダー育成セミナー」
時代に打ち勝つ『経営力』が求められている

「会社の将来のために、何が 필요한のか。」を学びます。

SIC経営塾では、自社の現状を分析することにより、自社の将来のための課題を考え、どのような計画を立て、どのように実践していくかを、先端的な企業のケーススタディーや、最新の経営理論と実践を通して学びます。

今年12年目を迎える「SIC経営塾」では、今年度も塾生の募集を開始いたしました。開講日は、6月15日(土)です。皆様のご応募をお待ちしています。

応募要項・応募方法等詳しくはSICホームページをご覧ください。



<http://www.sic-sagamiHara.jp>

編集
後記

おかげさまで、SICアントレ・インターンシップは、今年10年目になります。また、参加した学生は、昨年で修了者94名。今年のインターンシップ生の中で、100人目が輩出される予定です。10月発行予定の「SICかわらばん第27号」で是非ご紹介をさせていただきたいと思っております。お楽しみに！

追伸：今回、相模原市青年起業家育成基金への寄付金募集のチラシを同封いたします。6月1日から応募受付開始予定の「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」は、同基金と地域企業や個人の皆様からの寄付によって支えられています。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamiHara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <http://www.sic-sagamiHara.jp/>